

「桃山学院大学学生論集」第24号の発刊にあたって

学長 松 浦 道 夫

入選者の皆さんおめでとうございます。

本年度の懸賞論文の応募は89編でした。今までで最も多い作品数で大変嬉しいことです。しかもこの制度ができて以来、初めて学長特別賞が出ました。審査委員の先生方は嬉しい悲鳴だったでしょう。

この論集に掲載される作品のそれぞれのテーマは、桃山学院大学の特徴を現わしています。従来作品は政治、経済、経営、社会、国際、地域、人間などで、現代、近代を中心に多様性に富んでいました。今年はさらに多様性に広がりがありました。しかし、審査委員長 石田あゆみ先生のアドバイスがあったように、工夫と訓練が必要です。そうすれば、皆さんに一層力が付くでしょう。

ともかく、論文作成のベースはやはりゼミにあることがよく分かります。学生自身の努力は当然のことですが、ゼミ担当の先生の熱心で、温かいご指導も皆さんの大きな支えになったと思います。卒業年次生は進路問題を抱えて論文作成に取り組みながら、ゼミの学習を続けられたこととその努力に敬意を表します。3年生には再挑戦のチャンスがあります。そして、残念ながら入選されなかった皆さんも、ともに大きな成果があったことと思います。

本学では、学生のような活動を奨励、支援しています。スポーツ活動、国際交流、ボランティア活動、地域貢献活動、大学コンソーシアム活動、課外活動など、どれも大切なものです。しかし大学本来の教育は、ゼミの学習や論文作成が基本だと思います。ですから、皆さんの努力と姿勢は全学によい影響を与えるでしょう。

今回の表彰式も、入選者の一人ひとりの笑顔がとてもさわやかでした。私の仕事のエネルギー源はこの学生の笑顔と生き生きした姿です。入選者の皆

さんに感謝します。

この論集に掲載される論文は、学生生活の集大成であり大切な記念であります。きっと皆さんはこのことによって、達成感や連帯感や感動を味わったことでしょう。

最後に、第24号の刊行も、審査委員の先生方のご苦勞と担当職員の方々のご支援の賜物です。学生とともに心よりお礼申し上げます。